

2014年度

事業報告

自 2014年 4月 1日

至 2015年 3月31日

公益財団法人 正力厚生会

〔がん患者支援事業〕

＜患者団体への助成＞（継続）

全国のがん患者会や支援団体などの中から、資金不足からイベントやプロジェクト、研究などができない団体を一般公募し、専門委員会での審査を通過した団体に活動資金を助成する事業です。全国の23団体に助成しました。

助成金は、小児がん闘病体験者のためのハンドブック作成、患者同士の交流を促進するためのHPのリニューアル、がんケアサロンの運営費、専門医師などを講師に招いての勉強会・講演会開催に伴う諸費用に充てられました。

＜医療機関への助成＞（3か年計画の最終年度）

3か年計画の総括の年度を迎えた「地域における緩和ケアと療養支援情報プロジェクト」（国立がん研究センター、がん研究会、東京大学死生学・応用倫理センター、帝京大学で構成）は、プロジェクトの目標であった在宅療養支援冊子をほぼ完成させました。今後は、全国のがん診療連携拠点病院など関係各所で配布するほか、正力厚生会の公式サイトなどでだれもがダウンロードできるようにします。

この冊子は、「在宅療養における具体的なノウハウ」「患者とのコミュニケーション」「患者と家族の心のケア」「看取り時期の迎え方」などをテーマに、全人的なトータルケアを目指す患者と家族のためのガイドブックで、完成までの過程で、2012年度から3回にわたって開かれた「がん医療フォーラム」（2012年度：地域で支える新しいがん医療のかたち、2013年度：がんと共生できる社会づくり、2014年度：がん患者と家族を地域で支える仕組みづくり）を通じて寄せられた医療、介護、福祉各分野の関係者、患者本人とその家族からの意見や提案が多く盛り込まれました。

今後は、地域や医療現場での冊子の普及と活用を目指した活動を引き続き3か年計画で進めます。

なお、プロジェクト総括のフォーラムとなった「がん医療フォーラム2014」は、2014年12月13日に都内で開催され、約300人が集まりました。

フォーラムの様子は、2015年1月24日付読売新聞朝刊全国通しで掲載されたほか、読売新聞の医療サイト「ヨミドクター」でも公開されています。加えて、国立がん研究センターがん対策情報センターのサイト「がん情報サービス」においても、動画配信されています。

＜読響ハートフルコンサート＞（継続）

がん患者や家族たちの心を癒すため、読売日本交響楽団員を全国各地のがん診療連携拠点病院に派遣して、弦楽四重奏などを披露しました。2014年度は、全国6会場（那覇市立病院、秋田赤十字病院、高知医療センター、松江赤十字病院、福井病院、山口大学医学部附属病院）で開催しました。

各会場では、患者や医師、看護師などの医療従事者約100人が集まりました。会場からは、「プロの素晴らしい音楽から力もらった」「気分転換ができて、とても良かった」などの声が寄せられました。

なお、各会場でのコンサートの様子は、読売新聞の各地域版に掲載されています。

また、山口公演をもって、2007年度からスタートした読響ハートフルコンサートは、全国47都道府県を一巡しました。

以上